

プロフィール

製薬会社での 3 年半の勤務後、ジョージ・メイソン大学（米国）紛争分析解決学修士課程修了。大学院在籍中に平和構築人材育成事業に参加、海外研修は国連開発計画（UNDP）レソト事務所に派遣。現在、同事務所にて Peace and Development Programme Associate として継続勤務。

1. 平和構築人材育成事業に応募した理由を教えてください。

応募当時は修士課程 1 年目を終え、卒業後、紛争解決及び平和構築分野で働きたいと思い就職活動を始めた頃でした。大学時代にイスラエル・パレスチナの青少年の対話交流活動を実施する NPO に長く携わっていたことから、違った立場での経験を積みたいと考え国際機関も考慮に入れていました。この事業を通じて途上国の現場で研鑽を積み、今後のステップにつなげていきたいと思い、応募しました。

2. 国内研修に参加した感想は？

短期間で膨大な研修内容を網羅した非常に密度の濃い 6 週間でしたが、本当に多くのことを学ばせていただきました。改めて国連の仕組み、平和構築の近年の課題などを第一線で活躍する講師の方々から直接伺うことができ貴重な経験であったと思います。他の参加者との出会いもかけがえのないもので、現在でも時々連絡を取り合って励ましあったり、お互いの任地を訪問したりなど、国内研修後にも大変大きな精神的支えになっています。

海外実務研修を経た今、国内研修で非常に役に立ったと思うことのひとつは国連機関のコーディネーションに関するセッションです。近年の国連の傾向として国連機関間の連携・プロジェクトの共同実施が課題として挙げられていることを踏まえ、国内研修中はこのテーマに関する講義の他、仮想の緊急人道援助を行うという設定のワークショップを行いました。ニーズの規模や各機関の活動権限、また時間的制約を踏まえたコーディネーションは想像以上に大変で 100% 納得できる結果を生み出すことは難しいということを実感しました。海外実務研修では国連常駐調整官事務所（RCO）と仕事をする機会が多々あり、他機関と協力してプロジェクトを実施する状況に接しました。ワークショップで学んだことが時折脳裏をよぎり、活かされる場面が多々ありました。実務に即した内容の研修で非常に有意義であったと感じています。

3. 海外実務研修での活動について教えてください。

1 年間の海外実務研修では、UNDP レソト事務所のガバナンス・平和構築ユニットに配属されました。その中で主に、1) 国内平和構築メカニズムの構築提案、2) 政府への「持続可能な開発目標」(SDGs) の導入サポート、3) 青少年の社会参加促進、4) 国連システムの取り組み補助に携わりました。

「National Peacebuilding Architecture」(NPA) 設立提案

レソトでは独立以来政治及び治安部門において不安定な情勢が続いており、近年特に情勢の悪化が懸念されています。こうした状況に鑑み、政府や市民社会団体、宗教指導者等、各種セクターに対し紛争予防及び危機管理を目的とした国内メカニズムの構築の提案を行いました。メカニズムの基本的な概念を紹介し、他アフリカ諸国が既に導入した類似モデルを例に挙げつつレソト情勢に沿ったメカニズムを設立すべく、協議を行いました。



省庁の技術専門家と NPA に関する協議

青少年啓発及び社会参画サポート

高い非雇用率や HIV/AIDS 感染、若い女性の出産に伴う保健衛生の課題等、レソトの青少年を取り巻く開発課題は深刻で多岐にわたります。UNDP の取り組みもより強化することになり、担当を任されました。研修期間は MDGs から SDGs への移行期であったことから、2030 アジェンダの普及を目的としたトレーニングやワークショップを実施し、青少年の参加を促し青少年団体とのコンサルテーションを行いました。取り組みの一環として、4月6日の「開発と平和のためのスポーツの国際デー」では、青少年省やレソト・オリンピック委員会青少年部の協力を得て、SDGs や保健衛生、起業家精神などスポーツが貢献できる開発課題を全国から集まった青少年と共に話し合いました。



「スポーツの日」ワークショップの青少年参加者らと

レソト国会への SDGs 普及

SDGs の開始時期に伴い、レソト政府と国内において SDGs を導入しレソト国会議員のワークショップの実施にあたり運営に携わりました。議会会期中であったことから当初日程のすり合わせや両議会同士の調整が要され準備は最後まで緊張していましたが、当日は多くの議員が参加し活発な議論の場となりました。



積極的に参加する国会議員ら

国連システムの取り組みに関するサポート

所属部署は国連常駐調整官事務所 (RCO) と協働する機会が多かったことから、レソトの国連システム全体での取り組みにもいくつか携わらせていただきました。国連創設 70 周年を記念

するイベントの一環として、市内の孤児院と障がい児施設にてアート・マスタークラスを実施した際には、地元の美術学校の学生らに協力を仰ぎ水彩画の教室を開きました。「私の将来」というタイトルのもと、先生や警察官、女優など様々な夢が子どもたちの絵に表れていました。



アート教室に参加した児童



アート教室をサポートしてくれた高校生たち

4. 海外実務研修での感想は？一番印象に残っていることは？

あっという間の1年でしたが、非常に有意義な経験をさせていただきました。レソトは人口200万人の小国で国際社会の注目を浴びることは少ないですが、政治、経済、保健、気候変動、どの分野においても深刻な問題を抱えています。こうした膨大な課題に対し、どのように限られた資源を用い、より包括的な方法で効果的に活動を遂行できるか、という開発の根本的な課題を机上ではなく現場で強く考えさせられました。特に平和構築への取り組みに関しては、政府との協議の難航や各ステークホルダーの考え方の違いなどにより、プロセスが思うように進まない状況が多くありました。その度にオフィス内で「この場合はどうすべきか」「次はどうするか」という議論を繰り返し、事業方針を固めていきました。こうした一つ一つのステップに携わり学ぶことができたのは大きな収穫であったと思います。また携わった事業の性質上、現地の青少年らと接する機会が多くありましたが、彼らと話をする度にいつも彼らの情熱や社会に貢献したいという気持ちが伝わってきました。こうした前向きなエネルギーに私もサポートされるような気分になり、とても印象に残っています。

5. 今後のキャリア・プランを教えてください。

今後も国連のフィールドで平和構築に関わる活動に従事したいと考えています。特に青少年分野は昨今平和構築の鍵となる人口グループとして期待が高まっており、より見識を深めたいと思います。

6. 事業への参加を考えている方にメッセージをお願いします。

これから国際機関へのキャリアを目指している方には非常に良い機会だと思います。私は応募前に国際協力分野での職務経験はありませんでしたが、キャリア転向という意味で貴重な一歩を歩むことができたと思っています。国連では本当に様々なバックグラウンドを持つ方が働いていますので、どのような経歴をお持ちであれ、これまで得たスキルや経験を用いて活躍されたい方は是非応募されるべきかと思っています。